

海外安全対策情報（２０２１年第１四半期）

１ 社会・治安情勢

新型コロナウイルスの感染が拡大し、その対策として、ギリシャ政府が２０２０年１１月から外出制限、夜間外出禁止、店舗営業禁止等の国内制限措置を講じている。警察が取締りを行っており、違反者には罰金が課せられる。

- （１）凶悪事案は多くないものの窃盗事件が多発しており、特にアテネでは地下鉄・駅等での邦人のスリ被害が極めて多い。
- （２）アテネでは各種労働組合等によるデモや抗議集会が連日のように行われている。大半は平和的に行われるが、一部が暴徒化することもあり、一定の注意が必要。
- （３）アナキストグループの活動が活発であり、様々な口実で、政府関連施設、企業、各国大使館等に対する攻撃を行っている。今後、何らかの理由で日本関連施設が標的となる可能性も排除できない。アテネやテサロニキでは、深夜に警察官に対する火炎瓶等による攻撃が散発的に行われている。
３月には警察官による一般人に対する暴行に端を発した暴動が発生したほか、収監中のテロリストのハンガーストライキに呼応した過激な抗議行動が多く行われた。
- （４）フェリーや地下鉄などの公共交通機関が全面的に運休する大規模なストライキが、度々行われている。

２ 一般犯罪・凶悪犯罪の傾向

- （１）２０２０年（１－１１月期）は新型コロナウイルス感染症とギリシャ政府による外出制限措置などによる影響で犯罪発生件数は大幅に減少したものの、在宅時間が長かった影響からか、インターネット広告詐欺や高齢者を狙った訪問販売詐欺事件が増加した。

【２０２０年１－１１月期犯罪統計（前年対比）】

強盗：－４２％

侵入盗：－２８％

自動車・オートバイ盗：－２８％

詐欺：＋４５．９％

- （２）現在、ギリシャ政府の出入国制限措置により日本人は原則入国拒否となっていることもあり、邦人被害は少ない。平時はアテネでは邦人のスリ被害が極めて多く発生しており、特に地下鉄車内や駅、シンタグマ広場周辺に被害が集中している。主に腕利きの犯罪集団による犯行であり、在留邦人や旅慣れた旅行者も多く被害に遭

っている。

ここ数年、邦人被害件数が増加傾向にあり、2019年は120件もの窃盗被害が当館に報告された。その内、8割以上がスリ被害である（当館手集計による統計）。2020年は新型コロナ禍で邦人観光客数は激減したものの、引き続き邦人犯罪被害が発生していることから、邦人が標的となっている実態が窺える。

【代表的な邦人被害事案の手口】

- ア 邦人被害では、アテネの地下鉄や駅におけるスリが最も多く、知らぬ間にリュックサックや鞆を開けられ財布等を盗まれている。被害防止のため、リュックサック等を身体の前でしっかり保持することが重要である。
- イ シンタグマ広場やオモニアでは、話しかけられたり、液体をかけられたりして、荷物から目を離した隙に鞆などを盗まれる被害が多発している。プラカ地区では飲食店での置引き被害が多く発生している。ホテルの朝食会場でも被害が出ている。
- ウ サントリーニ島のイアでは、人混みのなかでの路上スリが急増している。鞆、特にリュックサックは身体の前で保持することが重要である。

3 テロ・爆弾事件発生状況

3月にテレビ局に対して爆発物を仕掛ける事件が発生したほか、深夜に爆発物でATMを破壊する事件が連日のように発生している。

4 誘拐・脅迫事件発生状況

邦人等に対する誘拐事件及び脅迫事件は把握していない。

5 日本企業の安全に関する諸問題

具体的な問題は把握していないが、当地では、環境問題や労働者の待遇、解雇や作業事故などを口実として、アナキストが企業を攻撃するケースが多く発生しており、注意を要する。